

「互いに信頼し支え合って活動し、  
楽しく豊かな学級や学校生活をつくり出す子どもの育成」

岐阜市立加納小学校教諭 上出 尚子

### 1 主題設定の理由

小学校新学習指導要領では、特別活動がよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため、目標に「人間関係」の文言が加えられた。また、これまで中学校学習指導要領の目標にあった「自己を生かす能力」の育成が小学校でも求められている。最近の子どもたちを見ると、自己中心的な価値観をもつ子や自尊意識がもてない子が少なくない。これらのことから、今の学校教育に求められているのは、「よりよい人間関係を築く力」や「集団の中で自己を生かす能力」の育成である。これは、小学校における集団活動で、意図的・計画的な指導援助によってこそ育成されるものであり、仲間とかかわることを通して、互いを理解し、認め合い、磨き合い、高めていくことができ、集団の中で自己の能力を生かし、よりよい人間関係を築くことができる子がそだつのではないかと考えている。

本実践は、高学年（5年生）の実践である。5年生の児童の発達的な特質を踏まえると、中学年までの経験を生かして、自分たちで決めた集団の活動目標を大切に、常に実践活動を振り返り、改善しながら目標を達成しようとする感情・意志が強くなる。学級全体としてまとまった活動ができるようになるとともに、目標を達成するために、互いに信頼し、支え合って活動することを強く求めるようになる。

また、集団としての実践や自分の言動について振り返り、改善するなど、よりよい生活を築こうとする意欲が高まってくる。

そこで、学級や学年全員で大きな行事に取り組んだり、児童会活動の運営に参加したりして、自分の役割や責任などについての自覚を深めていく必要がある。また、年間を通して、よりよい学級

や学校生活の実現を目指して、身近な問題に目を向け、改善していくことが、信頼し支え合って活動する姿につながると考えた。

以上をふまえて、本研究主題を設定し、研究をすすめることにした。

### 2 願う児童の姿

#### 【願う児童の姿】

学級や学校生活を楽しく豊かにするための願いを出し合い、互いに信頼し支え合って活動する中で、活動の内容や方法が分かり、よりよい学級や学校生活をつくりだす子

### 3 研究内容

#### (1) 指導構想の在り方

- ①児童理解の内容と方法の明確化
- ②指導計画の工夫

#### (2) 指導方法及びみとどけの視点と指導・援助の在り方

- ①指導方法の工夫
- ②みとどけの視点の明確化と指導・援助の具体化

### 4 研究実践

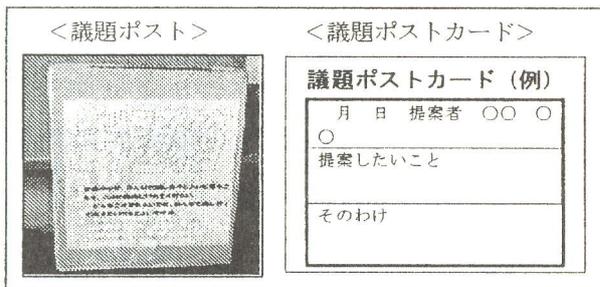
#### 5年生6月 「学級目標の達成を振り返ろう」 (話し合い活動) における実践

5年生では、4年生までの仲間と協力し、楽しい学級生活をつくりだした経験を基に、新しい学級の仲間や学年の仲間、さらには6年生を中心にした異年齢の仲間とも協力し合って、自分が所属する集団のよりよい生活をつくりだした喜びを味わってほしいと願っている。このような姿を育てていくために、6年生に協力しながら全校を支える活動を進めていく意義を理解したり、その活動を通しての満足感や充実感を味わったりすると

もに、段階的に、学級から学年、全校へと視野を広めながら自分達の力で活動を成立させていく積み重ねが必要であると考えている。

4月、5年生初めての行事である遠足では、金華山登山や学級集会の成功を喜び、仲間を思いやること、支え合って活動すること、最後まであきらめず取り組むこと大切さを実感した。その経験と、約1カ月の学級生活の振り返りを基に、学級の目指す姿について話し合った。そして、「仲間を思いやり 支え合って協力し 自分から進んで取り組み 責任を果たして 最後まで全員でやりきる5-2」という学級目標をつくった。この目標の達成に向けて、日常生活や係活動、委員会活動などに取り組んできた。

本議題は、1学期もあと4週間となる時期に、議題ポスト（3年生以上の各学級に設置されているポストで、学級や学校の問題を見付け、話し合いたいことを書いて入れることができる箱）で収集した問題を取り上げたものである。それらを計画委員会（司会者グループと学級委員で構成）で選定し、学級目標の達成という視点から議題化されたものである。



本時では、まず、日常生活や係活動、委員会活動などにおける自分たちの姿を振り返る。そして、具体的にどんな姿が学級目標のどの部分の達成につながっているのかを確かめたい。

さらに、重点をかけてよりよくしていきたい姿を明らかにし、改善案を決定していく。そして、1学期残り4週間の取り組みを通して、1学期の学級目標の達成を実感し、その達成感が2学期の「運動会」や学年行事である「野外学習」の取組への原動力となるようにしていきたいと考えた。

### (1) 指導構想の在り方

#### ① 児童理解の内容と方法の明確化

児童の実態を行動観察や調査などから把握し、

累積する。それを実践力を構成する3要素「感情・意志」「思考力・判断力」「知識・技能」から要因を分析し、一人一人に応じるための手立てを明らかにしていった。

今回の話し合い活動では、以下のような内容と方法で児童理解を行った。

#### 児童理解1

○児童とともに議題ポストや対話、行動観察、朝の会や終わりの会のお知らせなどから情報を収集し、集約した。

<議題ポストの内容から>

- ・給食の配膳時間が遅れることがあり、委員会の活動に遅れる、昼休みの時間が短くなり困る。
- ・授業で同じ人ばかり挙手している。
- ・みんなが楽しく遊べる学級遊びがあるとよい。
- ・調べ学習の新聞を書きたいが、書いたらみんなに配ってもよいか。
- ・席替えをしたらどうか・・・。

<対話から>

- ・タイマーで測って配膳をすると速くできた。
- ・給食を残す人がいて、片付ける時に時間がかかってしまう。
- ・自分が発表するのは楽しい。みんなノートに考えを書いているから、もっとみんなの意見も知りたい。
- ・給食の配膳の時、委員会の仕事や係の仕事で相談をしていて、立ち歩いている人がいると、速く配膳しにくい。
- ・授業や移動教室では、時間を守れている・・・

<お知らせから>

- ・給食の後、ストローのゴミが落ちているので、しっかり自分で確認をして捨てましょう。
- ・掃除の時、机の横に習字道具や図書館の本がかかっている人がいるので、自分のロッカーに入れましょう。(教室掃除から)
- ・工作係で使いたいので牛乳パックを集めたい。しっかり洗ってほしい。(工作係から)・・・

#### 児童理解2

収集した内容について、児童のどのような姿に現れているのかを児童とともに調べてみた。すると、以下のような生活実態が見られた。

- ・朝の会や終わりの会、授業では、日直の呼びか

- けで、自分たちで時間通りに始められている。
- 給食の準備中は、委員会や係の活動で立ち歩いている児童がいる。また、数名の児童は、仕事がなくとも立って話している。
- 休み時間は、男女関係なく誘い合ってサッカーをしている児童もいるが、いつも決まったグループばかりで遊んでいる児童もいる。
- 給食後、床にストローが、2, 3本落ちていた。
- 自分の机の横に、習字道具や裁縫道具などかけている。また、ロッカーの上に、荷物を置いている児童がいる。
- 委員会の仕事は、5年生同士で声をかけ合いながら、忘れずに活動している。分からないことがあると、すぐに6年生に聞いて確かめる児童もいるが、そのままにしてしまう児童もいる。

収集した情報の内容は多岐にわたる。そこで、計画委員会（学級委員と司会者グループの7人）で内容の検討を行い、議題を選定した。ここでは、「適切な議題の条件」として以下のような点を検討する必要があると考えている。

<教師側の理解>

- ・学級生活に直接結び付く問題であるか。
- ・学級全員の「共同の問題」であるか。
- ・子どもの自治的活動の範囲内であるか。
- ・子ども自らの手で、具体的に解決の方向を見出しうる問題であるか。

<子どもとの共通理解>

- ・学級や学校生活をよくする問題か。
- ・全員が話し合いに参加できる問題か。
- ・自分たちで解決できる問題か。
- ・今、話し合うとよい問題か。
- ・実行できる問題か。
- ・工夫できそうな問題か。

児童の内的な要因を考えると、5年生になって始まった全校にかかわる委員会の仕事に責任をもって取り組もうとしている。しかし、委員会の仕事のための活動時間が増え、意識が委員会活動に向いており、これまでできていた学級の目標に対する意識が低下している、学級の仲間への相

手意識が低くなっているととらえた。さらに、それらを改善したいと願いながら、どのように取り組むとよいか考えが浮かんでいないことも分かった。検討した結果、個別に返事をして解決する、先生にお願いする、第6回の議題とするものに内容を分別した。そこで、下線の内容については、それぞれで話し合うよりも、学級目標に照らし合わせて、話し合うとよいと判断し、議題を「学級目標の達成を振り返ろう」に決定した。

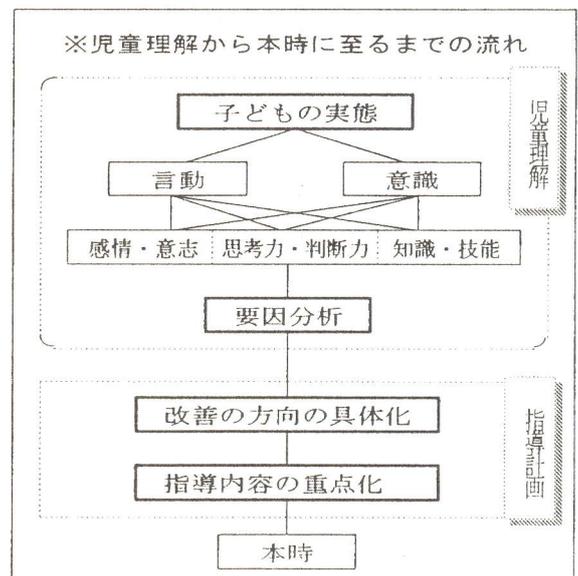
なお、話し合い活動における議題の種類は、大きく以下の6つに分けられる。

- A 学級の組織に関するもの  
(必要な係の新設、係の整理・統合など)
- B 学級会活動の計画に関するもの  
(学級集会の計画、係活動の計画など)
- C 学級内の約束や相互援助に関するもの  
(学級内の約束、全員への相談など)
- D 児童会活動に関するもの  
(代表委員の選出、代表委員からの要請)
- E 学校行事への参加に関するもの  
(運動会の応援、遠足の自由時間など)
- F その他学級生活の充実、発展に関するもの

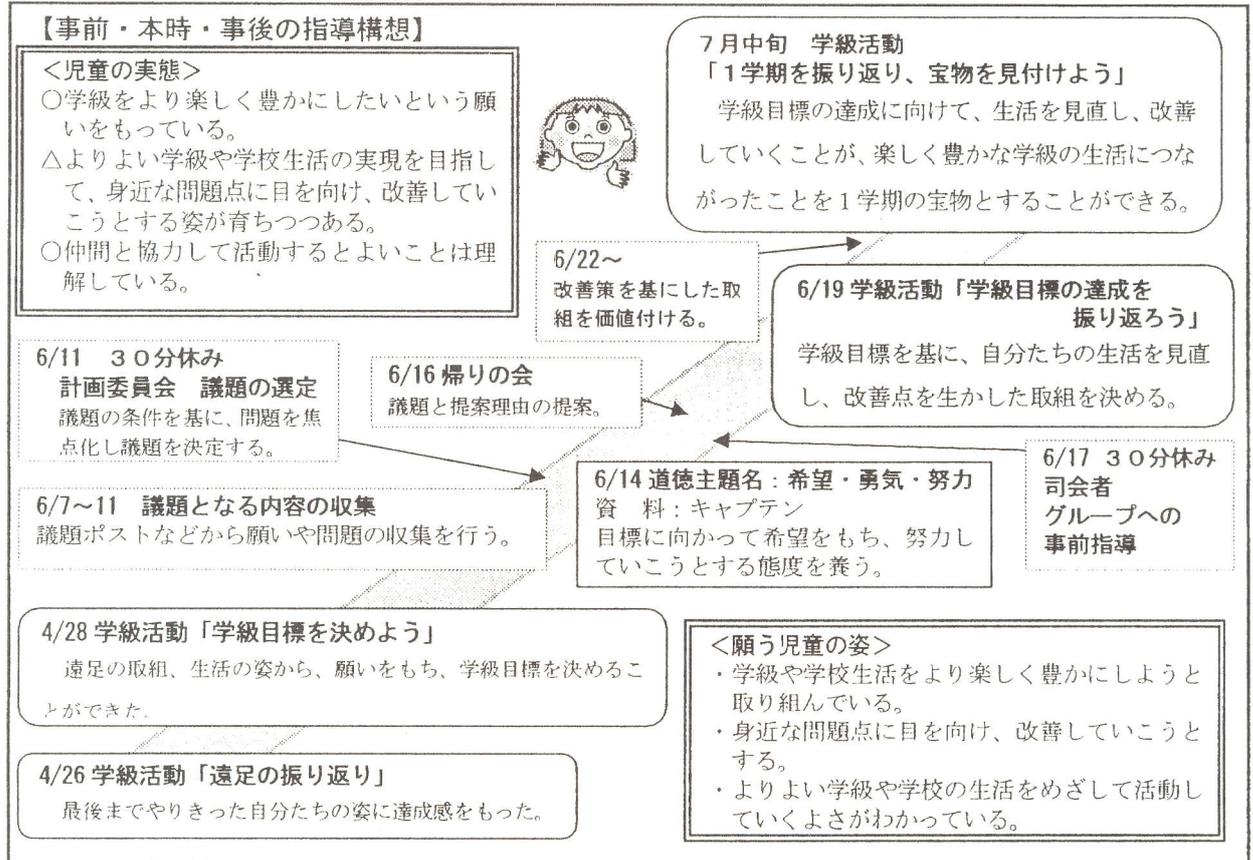
②指導計画の工夫

児童理解から見えてきたこれまでの指導上の課題を解決するために、題材を通して身に付けさせたい力を明確にする。そして、改善の方向を決めた指導内容の重点化を図り、指導計画を作成した。

<図1>児童理解から本時に至るまでの流れ



<図2>指導構想図



特に学級活動においては、要因分析を基にして、指導内容の重点化を図り、授業に臨んでいる。これは、多くの要因の中で、何をこそ1時間かけて指導すべき内容かを明確にするためである。そして、この指導内容を確実に身に付けさせるために、指導内容以外の要因の多くについては事前に解決しておく必要がある。そのために、短い学級活動の時間などを活用して本時に臨んだ。

また、道徳の時間との関連も図り、年間の指導計画の中で、本時にかかわる上記のような資料と内容項目の授業を事前に行っている。

さらに、学級活動での話し合いで決定した改善案について、自主的活動がどのように行われたか、どのように自治的活動を進展させたか、生活の充実や向上につながったかをみとどけ、価値付ける事後の指導も大切にしている。身近な問題に目を向け改善していくよさを感じたり、話し合っただめた改善策で、自分たちの生活を向上させることができるよさを実感したりしていくことが、楽しく豊かな学校や学級生活をつくりだす喜びへとつながっていくと考えるからである。

## (2) 指導方法及びみとどけの視点と指導・援助の在り方

### ①指導方法の工夫

- ・議題（題材）決定までの手順の明確化
- ・子どもの主体的な活動の位置付け
- ・意図性のある資料の活用
- ・教師の指導・援助の場の位置付け
- ・学習過程・学習形態の工夫
- ・自他の考えを交流する場の位置付け

本時の展開案は、次頁のとおりである。本時「学習過程・学習形態の工夫」として、少人数（4人）による話し合いの場を位置付けた。学習活動4の話し合いで出た意見をまとめ、改善案を考えていく段階で位置付けたことで、一人一人が具体的な内容で考えを出し合い、身近な問題を自分たち自身のものでとらえ、改善していこうとする意欲や姿につながったと考えている。

**本時の目標**

学級目標を基に、4月からの自分たちの生活を振り返り、成果をとらえるとともに、改善策を生かした残り4週間の学級全体での取組を決めることができる。

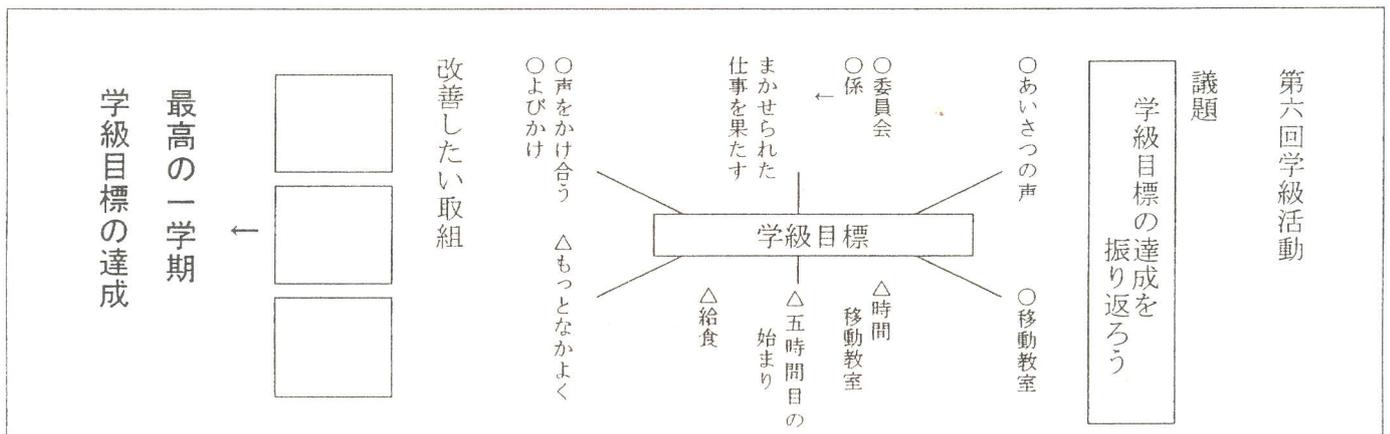
**評価規準**

学級目標の達成という願いを基に、自分たちの生活を振り返り、成果と課題を明らかにしている。  
(思考・判断)

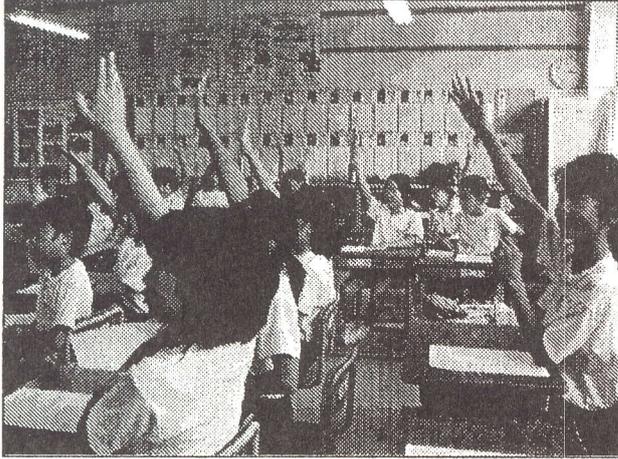
**本時の展開**

段階	主な学習活動	みとどけと指導・援助
つかむ5分	1 話し合いの議題と提案内容を聞く。 ＜議題＞「学級目標の達成を振り返ろう」  ＜提案理由＞ 1学期もあと約4週間となりました。2学期は、運動会や野外学習など学年の大きな行事があります。最高の姿で1学期を終わられるように、議題ポストで集めた内容から、これまでの生活を見直し、学級目標をもとに、成果と課題を出し合いましょう。そして、4週間で改善したい内容と取組を決めましょう。	◇本時、何を話し合うかが明確になっているか。 (つぶやき・表情) ・司会者グループが進め、取組期間を確かめ、見通しがもてるようにする。
話し合う35分	2 学級目標を基に、自分たちの生活を振り返り、成果と課題について話し合う。 ・あいさつで授業の始めと終わりのあいさつは、はきはきできている。普段のあいさつも大きな声でできているから宝物となりそうだ。 ・係や委員会の仕事を覚えて、6年生といっしょに取り組んでいる。「責任を果たして」ができている。 ・時間で、周りをよく見て声をかけている。「支え合って協力」ができている。給食や5時間目の始まりが時々守れていないので守りたい。「最後まで全員で」、につながる取組をしたい。 ・時間を守ることは、これからはいろいろな行事があるから、とても大切だ。一人でも守れないと達成できないから、みんなで協力して達成できるようにしたい。 ・「自分から進んで」ができている。声をかけられて気付いたり、並ぶのに遅れたりすることがあるから、自分から進んで行動したい。運動会や野外学習でも、みんなで行動することが多くなるから、進んで行動できるようになりたい。	◇これまでの生活を具体的に振り返りながら、成果や課題について考えているか。 (つぶやき・発言内容) ・これまでの生活を具体的に振り返って考えている姿を価値付ける。 ・これまでの生活や行事に関する掲示資料を基に、振り返るとよいことを助言する。
まとめる5分	3 話し合いで出た成果と課題を確かめる。 4 少人数グループで課題についての改善案と取組を考え、決定する。 5 教師の話聞く。  ①学級目標の達成に向けて、自分たちの姿を具体的に振り返り、改善していきたい内容と取組を決めることができたことを価値付ける。 ②主体的な話し合いにつながった司会者グループの進め方の様子を価値付ける。 ③活動の見通しについて話し、取組への意欲付けをする。	◇改善したい内容と取組を考えているか。(挙手・発言) ・取組のよさに目を向け、取組内容と方法を具体化できるようにする。

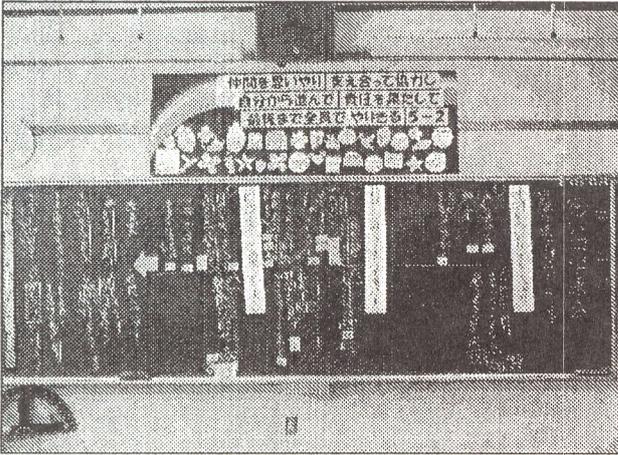
**板書計画**



<図3>実際の授業の様子



<図4>実際の板書



実際の話合いで出た成果と課題、改善案は以下の通りであった。

<成果○・課題△>

「仲間を思いやり 支え合って協力」

- 困っている時に声をかけることができる。
- 誰とでも誘い合って遊べている。
- 目を見て話を聞いたり、発表の後に反応ができています。
- △気付いて声をかけたり、応えたりする人が全員ではない。

△反応の声大きい時や小さい時があり、人任せにしてしまう時がある。

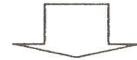
「自分から進んで 責任を果たす」

- 任せられた仕事をやりきっている(委員会や係)
- 分からないことがあると、自分で聞いて確かめている。
- 授業でたくさん挙手している。

- 宿題ノートやプリント、配り物がある時に、言われる前に気付いて、進んで配っている。
- △配り物がある時に、人任せにしてしまう。
- △時計を見て、行動できる時とできていない時がある。

「最後まで 全員でやりきる」

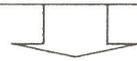
- 遠足で、みんなで励ましたり、声をかけ合ったりして、最後まで歩ききった。
- 係と委員会の活動が重なっても、その場にいる人で活動を進めて、計画通りに行えるようになってきた。
- 時間を守って、時間を生み出している。
- △給食の配膳時間が、しゃべっている人がいて遅くなることもある。
- △時間が守れる時と守れない時がある。



<改善したい内容>

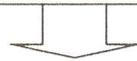
「時間を守る」

人まかせにせず、全員でやりきることを意識して、特に給食の配膳時間の短縮を目指して取り組みをすることになった。



<少人数グループで話合った改善案>

- ・時計を見て、声をかける
- ・時計を見て、必ず声をかけ合う
- ・次の授業の用意をして、行動する
- ・一人一人が時間を見る
- ・ストップウォッチで計る
- ・グラフを使って、毎日記録をする
- ・一人一人がてきぱきと動く



後日、司会者グループがまとめた3つの改善案を提案し、全員で取り組んだ。右のようなグラフやタイマーを用いて声をかけ合い、毎日決めた時間内に給食配膳が行えるようになった。

